

議 事 録

1. 会議の名称 令和6年度 第5回 石岡市複合文化施設整備審議会
2. 開催日時 令和7年2月3日(月) 午後3時00分から午後4時45分まで
3. 開催場所 石岡市役所 1階 多目的ホール（メロディアスホール）
4. 出席した者の氏名
大澤会長、山本（幸）委員、鈴木委員、富田委員、中根委員、菊地委員、鵜田委員、森作委員、木村委員、土子委員、長谷川（京）委員、山本（真）委員、甲斐委員、渡邊委員、山口臨時委員

【事務局】

市長直轄組織 浅田理事

駅周辺にぎわい創生課 複合文化施設整備推進室 瀬尾参事兼課長、長谷川室長、富田課長補佐、重藤係長、富田主任、江原主任技師、本田主幹

【受託事業者】

株式会社横須賀満夫建築設計事務所

5. 議題 ・施設整備へ向けた市としての方針について
 ・その他
6. 審議の概要 ・議事録のとおり
7. 担当課の名称 市長直轄組織駅周辺にぎわい創生課（複合文化施設整備推進室）
8. 議事録
 ・出席者が規定の定足数に達していることを報告（委員19名中14名出席）

(1) 議事

■事務局

それでは定刻となりましたので、これより令和6年度第5回複合文化施設整備審議会を開会いたします。

本日の出席委員は14名であります。本審議会条例第5条第2項に規定する定足数を満たしておりますので、この会議は成立していることをご報告申し上げます。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。初めに大澤会長より、ご挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

■大澤会長

皆さん、こんにちは。

本審議会ですが、前回、答申をさせていただきました。一方で市長の方からは、その答申案ではなくて、別の案を選ばれたということで、今回、急遽この審議会を開いたということです。

理論的には、審議会で答申した案の内容がそのまま行くという保証は全くないので、当然そういう選択肢もあるかと思います。ただ私個人的にも、ここを仕切ってきた人間として、やはりこういう審議会の場で説明していただきたい。あとは今後、どうするかということも協議したいと思っています。答申はもう既に行いましたので、ぜひ皆さん、順にですね、いろんな人が来るので言いにくいこともあるかもしれませんが、逆に、議事録に残すというチャンスでもありますので、ぜひご発言いただければと思っています。

最後に私の方から自分の意見ですね、今まで我慢してきたことをバンと言いますので。ぜひですね、皆さんのご意見いただきながら、有意義な時間にしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■事務局

ありがとうございました。

それでは議事に入りたいと思います。これ以降の議事につきましては大澤会長にお願いいたします。

■大澤会長

はい。議事に入ります前に、本日の会議の議事録署名人を指名させていただきます。K委員とN委員にお願いしたいと思います。

(了承)

それでは議事に入ります。(1) 施設整備に向けた市の方針について、事務局お願いいたします。

■事務局

それでは本日は複合文化施設整備に関する市の整備方針についてご説明をさせていただきますと思います。

この複合文化施設整備審議会につきましては、昨年10月の最終答申により、建設地、施設機能、事業手法などについて審議会の考えを市長に対してお示しいただいたところでございます。その後市では、審議会からの最終答申を含め、様々な状況から判断し、現在の施設整備に関する方針を決定し、事業を進めていくところでございます。

本日は、その事業方針について、市長より、皆様方にご説明を申し上げます。それでは市長よりお願いいたします。

■谷島市長

本日、皆様方にはご多用中にもかかわらず当審議会にご出席いただきまして、厚く御礼を申し上げます。

また、日頃から市政の様々な分野にご理解ご協力をいただいていることについて、この場をお借りして深く感謝を申し上げます。

既に報道等でご存じの方も多いかと思いますが、本日は私から直接委員の皆様、市民ホールを中心とした複合文化施設の整備方針についてご説明させていただきます。

令和2年3月の旧市民会館閉館により、それまで永きにわたって石岡市民の文化芸術活動の発表や鑑賞を支えてきた場が失われました。複合文化施設整備事業に関しましては、その文化芸術活動の場を再構築するべく開始したものでございます。

当審議会におきましては、会からのご意見を市の整備方針決定の一助とするため、市民の代表者や関係団体の代表者、また専門的知見をお持ちの方々などにご参加いただき組織をいたしました。そして令和5年5月に皆様を審議会委員に委嘱して以降、1年6ヶ月にわたり、合計12回の会議を開催し、昨年10月の最終答申により、会としての施設整備方針に関する考えをお示しいただいたところでございます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中会議へご参加いただいたこと、また最終答申の取り纏めにご尽力いただきましたこと、改めまして感謝申し上げます。

建設地につきましては、審議会からの中間答申において駅東の2ヶ所に絞り込み、さらに最終答申において「鹿島鉄道跡地」を適地とする形で提言をいただいたところでございます。しかしながら、石岡市議会令和6年第3回定例会において、議員提出議案であります「複合文化施設を駅東地区へ建設する計画に反対する決議」が賛成多数で可決され、市議会の考えとしては「鹿島鉄道跡地」に新施設を建設することが不適である、という考えを示された形となりました。

私としましては、当審議会からいただきました最終答申は皆様に時間をかけて取り纏めていただいたもので、とても重みのあるものであると考えております。一方、選挙により選ばれた市民の代表である議員で構成される議会の意思表示につきましても、とても重いものであると受け止めております。今回、建設地の決定にあたりましては、様々な状況も踏まえ大変難しい選択となりましたが、地域の文化拠点として、多くの市民にとって安全かつ快適な施設を着実に整備し、石岡市の文化芸術の推進と魅力あるまちづくりの実現へ向けて取り組みを前へ進めていくため、熟考に熟考を重ねた結果「いしおかイベント広場」に新たな市民ホールを整備することを決断したものでございます。

最終答申でいただいた建設地とは異なる場所を選択したことにつきましては、大変申し訳ない思いではございますが、新施設を石岡市の新たな文化芸術拠点として、石岡の文化芸術そのものを育み、伝え、根付かせていきたいという気持ちは、施設整備の検討を始めた当初から変わりはなく、また、皆様と同じ思いでございます。委員の皆様におかれましては、何卒、ご理解いただきますようお願いいたします。

最終答申では、「建設地」のほかにも様々な提言が盛り込まれておりました。ホール機能については最終答申にあるように、メインホール・サブホールの二つを設け、それぞれ可動式・平土間形式として用途を固定せず様々な利用ができるものとする事で、永く市民の文化芸術拠点としてあり続ける施設を目指したいと考えております。

ホール以外の機能としましては、子育て支援、部活動の地域展開、学び直しなどの多様な目的による利用が出き、幅広い年代が利用可能な施設となるよう、答申で提言いただきました機能を、基本的に整備することを前提に事業を進める考えでおります。その中で、石岡駅や中央図書館などの周辺の公共施設との連携をし、人の流れを生み出すことでより賑わいを創出する方策を考えて参ります。

施設の整備、運営にあたりましては、提言いただきました従来方式による整備手法や指定管理者制度導入による運営方法などについて検討を続け、民間活力をより引き出せるよう進めていきたいと考えております。

さらに、若い世代を中心とした住民参画を推進し、新たな活力を生み出すことで、石岡の文化芸術の発展や、さらにはまちづくりにつなげていきたいと考えております。また今回の施設整備にあたっては、急速に社会情勢が変化する中で、しっかりと時勢を捉えながら、柔軟な視点で弛まない見直しを行っていききたいと考えております。

繰り返しにはなりますが、皆様からの最終答申は非常に重いものであると受け止めております。私としましても、この答申内容を最大限に尊重する形で、今後も続く施設整備を着実に進めて参る所存でございます。

最後にはなりますが、大澤会長、青木副会長、委員の皆様方におかれましては、多くの市民をはじめとする利用者に喜んでいただける施設整備に向け、引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。私からの説明は以上です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

■大澤会長

それでは皆様、何かご意見ご質問ありますか。

■L委員

今、ただいま市長の方からお話あったんですけれども、そうしますと、東口の利用方法は、今後は何か市としての考えとか、できているものがあるのでしょうか。ちょっと確認させていただければと。

■大澤会長

事務局からお願いします。

■事務局

当然ですね、鹿島鉄道跡地に関しましては、今後利活用について検討していく必要があると思っておりますけれども、まずはこの市民ホール、こちらの整備を最優先というところで考えてございます。以上です。

■ L委員

そうしますと、去年も百里基地の航空祭などで、バスの回転場という形で利用させていただいたところもあったんですけども、この先また何年間かはその場所をお借りすることは可能なんでしょうか。

■ 事務局

現時点で明確に時期までお伝えできるものではございませんが、その施設整備の計画が始まって実際に事業が進む時間を考えればですね、所管課との調整は当然入ってくると思いますが、まだ数年はそういった利用方法は十分可能なものかなと考えてございます。以上です。

■ C委員

イベント広場に複合施設を作られるということで、そこに商業施設が一緒になるのですとか、複合施設ではなくてホール機能だけとか、そういうのも噂で聞いたことがあるので、その辺について教えていただければと思います。

■ 事務局

いしおかイベント広場に関しましては、確かにですね、今委員おっしゃいますように、商業施設としての活用について、民間事業者から提案があったことがございました。ただそれらのお話につきましては、今回、市民ホール、複合文化施設、こちらを整備していくということを最優先に考えることから、実際は進まないというところで考えております。

また、施設に入るものが市民ホールだけかというお話がございましたが、先ほど市長からもありましたように、皆様からの最終答申を市としましても最大限尊重していきたいというふうに考えてございますので、ホールとあわせて整備する施設内容につきましては、これまで委員の皆様長い時間をかけて会議で考えていただいたものを整備することを基本に考えております。

■ C委員

ありがとうございます。

■ N委員

まずですね、私、この審議会って何なのかなって。時間を返して欲しいなっていう気持ちも私にあるんですね。この審議会が石岡市のためになっているのか。何のために議論してきたのかっていうところを考えてしまいました。

委員の皆様一人一人全員がですね、立場のある方だと思うんですよ。みんながその中で、よくしようと思ってここで議論してるんだと思うんですね。それは誰のためではなくて市民

のためだって考えで。いろいろこう考えていく中で、担当の人にも言いたいんですけども、そうであれば、審議会は10名の方以外にもっともっと多くの方に参加してもらいながら話を聞いてもらえるような、開かれた考え方で運営をしていかないと。何のためにこれを作ってるのかっていうのが分からないと思うんですよ。10名だけなんてそんな恥ずかしい話はないですからね。

私の経験上、PTAとかいろいろな活動をやっていて、審議会を通れば、その通りに行くんだなと。ずっと石岡の歴史がある中で、審議会の答申を市長が受けて、それが形になってというのが流れなのかなと思っていました。

今回の件について、市民の代表者である議員の皆様の思いというものもあるとのことですが、議員の方もこの審議会にいましたよね。その議員の皆様が、根回しや調整をして話をまとめるっていうことも、一つの手法にあったのではないかなと私は思っていました。いいものを短時間で、みんなが分かりやすく、それを説明するのも議員の仕事だと思っています。反対することではなくて、それを市民の皆様に理解してもらおうということも、議員の仕事だと思っています。

今、この審議会で私どもが喧々譁々して、方針が決まったものに対して、どうだったんだろうかなあって思ってます。正しかったのかな、いや議員の皆様がバツを出したんですから、もっともっと違うやり方があったんだろうなって。ああそっか、じゃあそれを考えないといけないんだなって今思っています。

この審議会がこれからも続くのであれば、どういう立場で、これから皆さんどう気持ちを入れていけばよいのかなというところを、担当課に聞きたいです。市民の代表として私ここに立ってるんですけど、私たちはどうモチベーションを上げていけばいいのか。私は一人の人間ですから、市民の皆さんがどう思ってるのかは分かりませんが、でも一応立場上はその思いで来ているので。そこちょっと説明していただかないと、気持ちが収まりません。担当課お願いします。

■事務局

いくつかありましたので順番でお話したいと思います。

この審議会は、誰のために存在してるのかと。これはN委員おっしゃいますように、もちろん、市民のために、市を良くするためにという、その考えにつきましては、市長を始め我々としても、全く同じ思いでございます。漫然とただ事務をしているわけではなくて、市のため市民のため、その上で、目線をそろえて同じ足並みで進んでいたんじゃないかなと、このように思っております。

あとはですね、ちょっと細かい部分もなってしまうんですが、例えば傍聴の方10名、これで市民の声が足りるのかというところですが、こちら今回この審議会として初めて動き出す際に、傍聴は10名で足りるのかどうかというところの話は確かにありました。ただ10人を超えることが実際ありませんでして、こちらが超えてきて傍聴できない方が出たような場合には、当然改善していくものと考えておりました。

また、審議会の皆様は市民の代表ではいらっしゃるんですが、その他の市民からの声に関しましては、例えば、以前も開催しました住民説明会、あとは市民アンケート、そういったところで声を拾ってきたつもりでありますし、今後についてもそういった形で進めていき

いと考えております。

あとは、この審議会のあり方の部分になってくるんですけども、先ほど冒頭に大澤会長からありましたように、この審議会の始まりに関しましては、施設整備の大きな方針を決めていくことを使命として始まったものでございます。最終答申をして、一旦この審議会としての大きな区切りはついていると考えてございまして、今後管理ですとか運営ですとか、そういったところを計画として作っていかねばならないですけども、現時点ではどういった形になるか分かりませんが、こちらについても、市民の皆様の声を反映していける方式や枠組みを考えていきたいと思っております。

ちょっと戻りますが、市民の皆様のために進んでいる、こういった部分については我々も同じ思いだということでお答えしたいと思います。

■N委員

分かります。すごい分かります。

であれば、議論の中で、こういう方法がいいよね、ああいう方法がいいよねって出したところで、いやいや議員さんの考え方が強くてこれは駄目だよ、あれも駄目だよとなったら、もう、そこで意見も何もないじゃないですかっていう話です。

だったら、議員の皆様ともう1回話し合いましょうって。議員がそれだけ強いんだったら、みんな巻き込んで話し合って、いいものを作りましょうって。市のためになるものをみんなで作しましょう、その土台を作りましょうという、そっちにベクトルを持っていかないと、いつまでもいつまでも誰かが止めて、本当にできなくなっちゃいますよっていうのが心配です。もしできなかったら、市民の皆様は、やっぱりできなかった、石岡市は駄目だ、みんな足引っ張ってもうどんどんどん駄目になっちゃうって思うでしょう。だったらみんなで作えましょうよ、っていう提案をして私は終わります。

■M委員

去年はすべての会議に参加できなかったのも、私も把握してないところもあると思うんですが、最初三つ候補地があって、各候補地のメリット、デメリットがあったと思うんです。いしおかイベント広場の場合は、確か遺跡の発掘のための時間ですとか、あと、もともとついでに利用してもらえるみたいなことも施設のコンセプトだったと思うんですけど、やっぱり駅から徒歩で25分、車で6分ということになると、高校生とかが歩いて、ついで行くっていう距離ではないのかなと思っています。

今、記事とかも見てるんですけど、駅東地区がクリティカルにNGになった明確な理由があれば、そこを整理して教えていただきたいです。地盤が不安定で安全に整備できないのか、逆にイベント広場だったら安全に整備できるのか、もしくは駅周りだったらこれを建てるとやっぱり慢性的な渋滞や交通の問題があるからイベント広場なのかとか、普通に、冷静に、どういうクリティカルな理由があって、駅東ではなくていしおかイベント広場になるのかっていうのを教えて欲しいなと思いました。

あと最後、市長もおっしゃってくださったんですけど、令和2年に閉じてもう4年経っていて、やっぱりかなり遅いかなっていう印象は受けていますので、いしおかイベント広場だと確か遺跡の発掘があったと思うので、ちょっとその件も教えていただきたいなと思っています。

す。

■大澤会長

事務局どうぞ。

■事務局

順番が逆になってしまいますが、イベント広場というのは、確かにですね、埋蔵文化財の包蔵地になっておりまして、何か施設を整備していくにあたりましては、埋蔵文化財の調査というものが必要になってきます。

こちらに関しまして、現在、埋蔵文化財調査の担当課であります文化振興課と調整しております。金額ですとか、期間、こういったものについて具体的にどのくらい必要になってくるか、調整していきたいと考えてございます。ただ大きな全体工程においては十分に可能なものなのかなと、現時点においては考えてございます。

最初の質問にありました、石岡駅東とイベント広場、最終答申とは別の場所を選んだ理由の部分なんですけど、こちら先ほど市長からご説明あったところではありますけれども、様々な状況を踏まえ、大きな見地で総合的な判断という部分で、安全かつ快適な施設を着実に整備していくためということでお答えになると思います。

■M委員

総合的だとちょっと。もうちょっとクリティカルな理由が三つぐらいあると議論が建設的に進めやすいなと思いました。はい。でもありがとうございます。

■大澤会長

多分、今の答えになってないと思います。具体的にやっぱり言ってもらわないと、会長としては納得できないです。もう少し具体的に説明をお願いします。

■M委員

地盤がどうしてもとかあるんでしょうか。やっぱり総合的っていうのはあんまりよくないと思います。じゃないと、これから進めていく上でも、だからイベント広場がいいんだっていうのが不明確なまま話していかなければならないことになるので。逆に、議員の方なんかはどうしても絶対イベント広場がいいんだっていう理由があると思いますので、石岡市民にとって。それも教えていただきたいなと思います。

■事務局

具体的に説明をさせてもらいます。1番は、地盤の問題というのが取り上げられております。駅東地区の場合は杭を打つ必要があります。イベント広場の場合でも建物が大きいものですから杭が必要になりますが、イベント広場の方が駅よりは杭の本数も少ないですし、地盤も良好というのがあります。

あとはやはり駅のすぐ脇ということで、振動騒音という部分。こちらの建物に対する影響が大きい。イベント広場のほうが少ないということがございます。

あと、交通渋滞の問題に関しましては、駅でもやはり道路の問題はございますし、イベント広場におきましても道路の交通渋滞が起きる。こちらはどちらも同じものであるというふうには考えてございます。

■大澤会長

私も同じように疑問があつて、そこはクリアして議論したはずだと理解してます。それと安全っていうことですが、その相対で見たらそうかもしれないですけど、日本全体で見たら、東京なんて、首都直下や南海トラフ地震もある。その中で、東京近郊のまちは、地域活性化に努力してると。ですから、石岡の活性化っていうところとのバランスっていうのは、私は考えなければならぬと思ってます。

簡単にいうと、100点満点中で多分東京の地盤は20点ぐらいだと思うんですけど、何ら根拠もないですが、多分石岡の方は80点と81点のところで、その1点差を議論してるような気がしています。もう少し大きな、石岡の活性化という議論があってもいいのかなというのが、私の個人的な意見です。

それとあとN委員が時間を返して欲しいっておっしゃいましたけど、1番先に私もそれを明示しました、事務局に。全く同じ文章で。今までの回数等踏まえて、同じことを申し上げたということ、追加で説明させていただきました。

■C委員

今から発掘調査とかを行ってという話ですが、当初の完成時期は令和12年中だったかなと思うんですけども、工期が延びる可能性や予定があるのかというのが1点。あと駅からちょっと離れた施設を作るのであれば、今までは中央公民館とか、周辺のコスモスとかそういうところとあんまり変わらないのかなと思ってます。新しいという部分でちょっと違うのかもかもしれないんですけども、そのあたりの使うときの差別化についてはどういうふうと考えられてるのかなと思ひまして質問させていただきます。

■事務局

まず埋蔵文化財によって工期が全体がずれるのかという話なんですけど、こちらに関しましては全体工程には影響しないと考えております。もともと埋蔵文化財の調査をする時期というのが、基本設計が終わってから、実施設計と並行して進めるというのが基本路線になっております。実施設計の期間は1年程度ございますので、そこに合わせて調査することで、基本的に全体工程には影響しないものと考えてございます。

令和12年度中の供用開始についても、現時点においては変わっていないということでお伝えしたいと思います。

あとは駅から離れることで、例えば中央公民館とかコスモスとかと変わらないのではないかというお話でしたが、当然ですね、新しい施設になりますので、新しいノウハウなどが盛り込まれた施設になります。あとは使い方に関しましては、これまで審議会の皆様より、例えば重複利用ですとか、今の時勢に合った扱い方をいろいろ提案していただいたと思います。そういったものは、これから設計に入っていく段階で、もっともっと盛り込んでいけると考えております。例えば、先ほど市長からもありましたように、向かいの中央図書館です

とか周辺の公民館との連携も、これからまだまだ盛り込んでいけるものと考えておりますので、よりよい施設を目指して方策を重ねていきたいと考えております。

■N委員

もし出ちゃったらどうすんですか、できないよね。

■事務局

埋蔵文化財発掘調査については、現時点でもものすごい遺跡が出るとか出ないとか、そういったことはちょっと明言できませんけれども、進めることを前提に考えたスケジュールということでお伝えしました。

■事務局

埋蔵文化財の部分について補足をさせていただきます。

埋蔵文化財の調査につきましては当然一定の時間がかかるということで当初ご説明をさせていただきました。今回、イベント広場へ整備をするということで、令和12年度中までに施設を完成させるための手立てとして、担当課とも何回かいろいろ協議をしております。

例えばですね、建物を建てる部分だけをまず先行調査をし、建物に着工しながら駐車場部分ですとかその他必要な部分は、第2段階としてやるというように、令和12年度中に完成させるために、工夫をしながらやっていけるということで、一定の回答いただいております。そのため、私どもとしましては、令和12年度までという全体スケジュールの中で、何とか収まっていくのではないかとということで、判断したところでございます。

■N委員

そうすると、イベント広場の土地がこうあって、基本計画って、いいものを作るためには、こういう大きさがいいよね、どんな建物がいいかって考えて設計して、それをここにおきますって考えるんですよね。掘ってみて、もし出なかったら基本設計変えるんですか。出たら、ホールとかが小さくなっちゃうんですか。そこら辺の考え方よく分からないんです。

■事務局

まず今策定してる基本計画の次のステップとして基本設計をしていくわけですが、基本設計において、イベント広場の2万7000平米の土地のどこに建物を建てるかと、まず、建物の位置と規模感、それから基礎の構造ですとか、そういったものを整理していきます。それが確定すれば、その建物を建てる部分についてはまず調査が必要だろうということになるので、そこは最低限やっていくことになります。

建物を建てない、そこ以外の部分につきましては、例えば駐車場舗装するにしても、現況の地盤の上にそのままアスファルトを流すわけではなくて、ある程度掘削をして、砂利を入れたりするその計画を立てた段階で、深さが確定してきます。その深さが、埋蔵文化財に影響を及ぼす範囲なのかどうか。影響を及ぼすということであれば、発掘調査が必要になるということですので、発掘調査を行うということです。

現在担当課といろいろ調整をしている中で言われてますが、基本的にまず建物の場所、

あと規模、それから基礎の深さ、それを確定しないことには調査のエリアも確定できなければ、具体的な日数も把握できないということです。ですので、まずは基本設計の中で、そこを確定させた上で、今後実施設計と並行して調査をやっていくというような案ができたというところです。

埋蔵文化財が出たから建物を小さくするとかではなくて、まずは、大きい土地のどこにどういった基礎構造の、どういった大きさの建物を建てるか、そこを基本設計の中で確定をしていって、次のステップとして、埋蔵文化財の調査に入っていくというような流れになって参ります。

■N委員

何となく理解できました。

ということは、砂利のところはホールになるっていうイメージかな。こっちは調査終わってるし。そっちが建物が高くなるかなっていうイメージかな。

■事務局

そこについては設計の中でいろいろ検討していくことになると思いますが、ホールの場合、ご存じの通り、ステージのちょうど上の部分っていうのは、どうしても高さが必要になってきますので、そうしますと、あまり住宅地に寄せてしまいますと、日影規制等の条件をクリアできないので、そこら辺はですね、十分周辺の住宅に影響を及ぼさない位置っていうのは、十分精査していく必要があると思います。

それからあと駐車場と道路の位置関係というのも、十分整理をしていく必要があるのかなと思っています。当然ホールの場合、来るときはある程度分散して来たとしても、出るときは一気に出るというところがありますので、ある程度入口付近は、車が滞留できるようにしておかなきゃいけないのかなという部分もあります。あまり中央図書館側の道路の方に寄せてしまうと、敷地に対する配慮の点で支障があるのかなというところもあります。

そういった部分も含めまして、今、策定してます基本計画、あるいは今後を進めていくことになるであろう基本設計の中で、十分精査しながら建物の位置は決めていきたいと思っています。

■N委員

そうすると、この審議会ではその議論はもうされないっていうことですよ。

これからの審議会の話し合いを、どういうレベルで、どこら辺までやっていくのかっていうところも、後で教えていただければありがたいかなと。

■大澤会長

何か遺構が出てくるとかその可能性も当然あるわけです。あそこは確かに敷地が広いんですよ。自由度がありそうですが、交通条件とか、先ほどご説明にあった日影規制の条件とか考えていくと、そんなにこう極端に急に変更できるとはあんまり感じられない印象です。

■B委員

報道がありましてから、周りの方から、複合文化施設の複合の部分について今まで随分話題に上がりました。商業施設っていう意見もありましたし、高校生からも随分たくさん意見を聞いてきたと思うんです。高校生の居場所として勉強できるスペースの希望もありました。それで、報道があつてから、やっぱり周りの方から、せめて高校生たちがいられるスペースを何とか駅の周りに確保するってことってできないのかしらねっていう意見が小耳に入ってきたんですね。

にぎわい創生課ということで、駅の周辺を含めて考えてきたと思うんです、これまで。今、取手駅前がもう見違えてしまうぐらい開発されましたよね。土浦から向こうの東京に近い方っていうのは、開発のスピードはもちろん相当違うとは思いますが、特急が止まる駅を見ていくと、友部とかも結構変わってきているし、特急は止まらないですけど羽鳥駅あたりも大分変わったと思うんですね。にぎわい創生課で考えていくということで、やっぱり駅の周辺が長く変わっていくということに、期待があつたんじゃないかなと思うんです。

例えば今取り壊してしまった石岡の市民会館にあそこに、もし商業施設とか、何かこう若い人たちが好きなカフェとか、そういったものがあつたとしたらどうだったのかなって。人はもっとあそこに集まってきたのかなって、考えたこともあるんですけども、随分若い人たちの意見を聞いてきた中で、駅の周りっていうのは、一つ、若い人にはすごく期待があつたと思うんですよ。

人口が流出せずに、石岡ににぎわいを作り、活性化をすること。そこはやっぱり大事に考えていくべきだと思うんです。未来の子どもたちに何を残すか、何が若い人たちは欲しいのかなっていうのは、常に考えていくべきなんじゃないかなと。常磐線で石岡は主要な駅だったので、駅の周りは絶対何とかしなきゃいけないんじゃないかなって思います。

■事務局

当審議会もそうですし、当課、当室としましても、まず旧市民会館に代わる複合文化施設、市民ホール、こちらの再整備を第一に進めていくのが使命で始まっております。市長からもありましたように、市民ホールを最優先ということで、現在においては、いしおかイベント広場に整備していくということで、まずは第一に進めていきたいと考えております。

また駅近、鹿島鉄道跡地に関しましては、これまで皆様に議論いただいたメリットが変わるものではございません。有用性は当然変わりませんので、時期については何とも言えませんが、こちらについては市全体として今後考えていく必要があると考えております。

■大澤会長

ただ一つ言えることは、やっぱり財政的な裏付けって結構大事であって、そんなにあつちもこつちも作れないっていうことだけはですね、多分皆さん共有してるとは思います、コメントさせていただければと思います。

■A委員

自分からは、意見になってしまうんですけれども、複合文化施設ではやっぱりホール以外の機能も重視されてきて、審議会では、繋がりとか高校生も重視してきた中で、施設内容は審議会の意見を尊重していくとは言っているんですけれども、イベント広場になった場合に

は学習スペースなどは利用が少なくなったりすると思うんです。お金の問題と規模感がどうなのかなって、満足したものができるのかなというのは疑問があります。

あと、やっぱり高校生とか、部活動とかを重視してきて、せっかく高大連携事業とかをやってきたので、イベント広場のほうに関して出た高校生の意見を重視していくっていうやり方もあるのかなって思いました。

あとは、駅から離れてるということで、公共交通とか地域内交通について考えるいい機会になればいいなと思いました。

■事務局

まずはですね、場所が変わったことで満足した利用をしてもらえるかという点、学習スペース等についてというところがありました。先ほどからご説明が繰り返しのになってしまう部分もございますが、今まで皆様にご議論いただいた、利用の形態ですとか、そういった部分についてのは今後も十分活かしていけるものと考えております。向かいの中央図書館をはじめですね、利用の皆様により満足いただけるような方式や方策は、これからも十分とっていけるんじゃないかなと思っております。

あと2番目にありました規模感のお話でございますが、現時点において、場所が変わることによって施設の規模感を何か変える、場所が変わったという理由だけで何か置き換えるということは特に考えておりませんので、こちらについては、引き続き、皆様に議論いただいたものをベースに考えていきたいと考えております。

あとは、イベント広場が変わったことで、高大連携を含めて、また若い方のご意見を取り入れられるんじゃないかというご意見ありましたが、こちらについても、まだまだ期間的には若い方のご意見取り入れる余地があるかと思っておりますので、よりよい方策を考えていきたいと思えます。

あとは公共交通との連携ということがありましたが、こちらについてもまだまだこれから十分対応できるものと考えておりますので、この先進めていきたいと考えております。

■G委員

まず私聞きたいんですけども、1点目が、この審議会をどのような位置付けで執行部が考えているのかっていうところです。

私が議員になる前も、例えば石岡駅であったり新庁舎であったり、今の皆さんと同じように仕事の合間に都合をつけて会議に出て答申を出して、結果何も取り入れられなかったっていうのは過去の石岡市で数多くあって、今度も似たような感じだと思うんです。ただやっただけならば、皆さんのお時間使ってこうやって進めていったものが、本当に空しくなってしまうんじゃないかなと思ってます。

あと冒頭N委員の方から、議員の皆さんも3人いるので、そこをっていうことだったんですけども、これは弁解になってしまうんですけど、例えば新聞報道であったりっていうのは一つの場面であって、僕ら議員はこの審議会のほかに、例えば複合文化施設の特別委員会であったり、産業建設委員会であったりいろんなところの情報も得ながらやっています。自分も参加して出た資料で、ちょっと皆さんと違うなと思うのはやっぱり財政であったり、これからの人口推計であったり、いろんなものを加味しているのです。

皆さんがここで言った意見をもっともっと議員に伝播していったらいいんじゃないかっていうことだったんですけども、もちろん審議会ではこういう資料が出てこんな感じだったと、皆さんの意見は駅東が多かったとか、でも中にはまだイベント広場にならないですかねっていう考えをお持ちの方もいましたよということは、私も全員にじゃないですけど、ここに3名議員いますので、3名が口開けばほぼ全員にはその内容は伝わっているかと思えます。

ここ難しいところで、最近の報道を見て、確かに市長と議会が対立してるようなイメージを皆さん持っているかもしれないですけども、決してそうではなくて、その間にはプロセスがあるんですよね。その進め方であったり、私たちの投げかけに対しての答えであったり、そういったものも加味しての、この間の駅東へのバツ印だったので、その辺はちょっと簡単には言えないかなと。

例を言えば、もう僕次の選挙関係ないので言っちゃいますけど、市議会議員も難しくて。例えば駅のところにある展示山車、あれを見に行ったときにも、ちょっとこういうものでは困るんじゃないかって止めても、いやもうこの方向で進めなくちゃならないんで進めますって。私はあのときは止めたかったんです、途中でも。だけど、最終的に通してやりました。じゃあできたものに対して市民から何言われたかっていうと、議員が袖の下でも貰って通したのかって、そこまで言われるんですよ。

なので僕らも難しい立場なんですけど、これはもう付託を受けた以上しっかり自分の考えの中で、右左をつけなくちゃならないので、N委員がおっしゃったように、すべてを市長の協力とか、すべてを反対とか、そういった意味でここにいる3人や議員全員も進めているわけではないので。それはちょっと考えていただきたいなと思います。

あとですねやはり、今後審議会を続けていくのに、例えばあと5回やって、また皆さんの意見を出して、それがまた無かったものになってしまうようなことになってしまうといけないので、この辺の位置付けというか、その部分について執行部と市長はしっかり認識して欲しいんですよね。どういうスタンスで行くのか。私は議員もやってますけど現場もやっているので、そこを止めてきてるわけなので、ただ市民の皆さんの意見を聞きましたという場の作り方ではいけないと思います。

あと、執行部さんに言いたいのは、先ほど駅東が何でダメだったのかっていう理由についても、私とはちょっとニュアンスが違っていたし、そういうふうに把握してるのかと、ここで初めて思った点がありますので、もう少し丁寧に答弁していただいた方がいいんじゃないかと思えます。

■事務局

G委員さんへの回答になりますけども、まずこの審議会について。先ほど市長の方からもありましたように、審議会は今回諮問を受けているわけです。複合文化施設、いいものを作るために、市民の代表の方、関係団体の方、専門的知識を持ってる方、この方たちの意見を取り入れていきたいということで諮問をしまして、答申をもらっております。

これは先ほど市長からもありましたように、重要なものと受けとめておりますし、重要な位置付けとなっております。ですので今後も審議会が続くのであれば、今後も変わらずもちろん重要な位置付けになりますし、これまでもそうして皆様方の意見を聞いて参りまし

た。

あと、駅東への認識が違ふというふうに言われましたが、いろいろな部分もあると思いますが、私どもとしましては駅東がダメだったというのは大きくはそういった理由であるというふうに考えてございます。

■ G委員

意見は様々で議員も今21名いますので。いろいろ偏った意見、いろんな意見があるかと思っています。

それではもう1点だけ聞きたいんですけども、複合文化施設ということは変わらないんですよ。今後進めていく中で、新市民ホールという形で執行部の皆さん進めてますけど、新市民ホールだけではなく、複合で進めていくという。この答申を重んじるのであればそうだと思うんですけど、そのお考えでよろしいんですね。

■ 事務局

はい、お答え申し上げます。

先ほども市長のご説明ございましたように、市民ホールの方はメインホールとサブホール、そのほかに最終答申にもありました、子育て支援の場ですとか市民ギャラリーといったものを入れていくという形です。

この、「複合」について皆様の定義がいろいろあるかと思いますが、例えば図書館と市民会館が1個ずつあったものを、その二つの建物を一つにするというのも複合でございますし、機能的な複合、例えば市民ホールとギャラリーを複合していく、子育て支援のキッズルーム、こういったものも石岡市にはございませんでしたが新たな機能として一緒に建物に入れるという形についても、大きくとらえて複合文化施設になるというふうに考えてございます。

■ G委員

今後続けていくなら、その辺もある程度定義を言わないといけませんよね。

■ N委員

すみません。まずもってG委員、またI委員、H委員におかれましては、私が先ほど発言したこと、本当に失礼なことを言ってしまったようであれば、謝りたいと思います。またいろんな部分の中で、議員の皆様に対して失礼なことを言ってしまっていたら、本当にごめんなさい。その中で、今のG委員の話を聞いて、そうだなって気持ちにもなりました。その思いの中で、いろんな意見があって形になっていくんだなっていうところを、理解しました。

その中でもう一つ、複合ということで、私どもが議論してきた中では、候補地が決まって、じゃあここだからどんなものが複合として入れられるのかなって議論してきたと思うんですね。それがなくなって、別のこっちゃだねってなったときに、私たちはここからこういう施設が市民のために必要だなって考えてきたことが、なくなってくる。答申をそのまま受け取るというと、そこでそういうのものを作るのは石岡市のためになっていないんじゃないかなって、私は個人的に思うんですね。立地との相性ですよ。本当に子育てする人たちがそ

こに集まるのか、高校生がそこに集まるのかっていうところは別の議論の中でしてきたので、そこをちょっと頭に入れてください。

私今ふと思ったのは、ちょうどあそこに府中小学校の改築があるとか、そういうものも考えながらやる形も、地域にはあるんじゃないかなって思うと、やっぱりもう1回議論しないといけないのかなって思いました。

■事務局

N委員もおっしゃいますようにですね、今まで議論してきた中で、複合していく機能について、場所があってそういった議論してきたんじゃないかと。確かにそういった意見もなくはなかったかなと思っておりますが、事務局としましてはですね、これまでの議論は場所ありき進めていたばかりではないと思っておりまして、真に石岡市に必要な施設ですとか使い方はどういったものか、こういった点に重きを置いて話をしてきたと考えております。複合する機能ですとか、利用の仕方について、すべてゼロに戻して議論をし直す、そこまではではなく、市にとってどういったものが必要かについて十分議論できてきたのではないかなと考えております。

あとは小学校の併設や一体整備についてご意見がありました。現実的にそういったものが可能なのかという部分もありますけれども、ほかの公共施設と連携した使い方、施設のあり方、こういったものについては、石岡市としてよりよいものを今後考えていきたいと考えております。

■C委員

今N委員からあったように、その場所その場所で、使い方とか相性とかっていうのは私もあると思います。今まで私たちは、市民の人たちにとっていいホールっていうことで議論をしてきましたけれども、石岡市はどんどんどんどん人口が減って行って、今月7万人を切りました。そこで、石岡市の人たちの施設っていうのはもちろんなんですけれども、県外の人とかにとっては、この施設がアクセスしやすかったり使いやすかったりっていうメリットもあるよねって形で、駅直結のお話を進めてきたかと思います。

石岡市外の人、県外の人から来てもらって、お金を落としてもらったり石岡市の魅力を知ってもらったりっていう点においても、駅直結っていうのはいいよねっていう話だったんですけど、もしイベント広場の方に作るのであれば、駅直結じゃなくなっちゃうので、もっと何かこう、唯一無二のほかにはないような施設を作っていくことっていうのが、長い目で見ると必要なのかなというふうに思っています。

それから先ほどN委員もおっしゃってたように、駅東に今まで作ろうと思っていたものをイベント広場に作っても、私は先ほど申し上げたような、中央公民館と何が違うのかって思ってしまうので。例えばもっともっと人数が収容できるような大きいホールを作って何か公演とかやって、外からもお客さんが来てもらえるとか、そういう何かこう起爆剤になるような施設を作っていただけたらなと。私の個人的な思いなんですけども、そういうふうに思っております。

■事務局

新しい施設に関しましてはまずはですね、市民会館に代わるホールということで、市民を中心とした、またそれ以外の方も利用できるホールというのを目指しております。当然、駅直結であれば、公共交通、電車を利用した利用者というのも想定されていたと思います。こちらに関しましては先ほどA委員からもありましたように、イベント広場になることでも、公共交通との連携充実をより図って、アクセスしやすい施設を目指していきたいと思います。

あとは施設のコンセプトの部分になりますが、石岡市らしいホール、石岡市らしい施設というのは、ずっと議論してきた部分だと思います。こちらの部分に関しましては、今後計画が終われば設計に入ってくるわけですが、そういったものを見出していける施設を目指していきたいと思っております。

■D委員

ずっと審議会には参加させていただいて、中心として考えられてきたことってというのは、どこに建てるかということや、経営手法はどうしようかというな事かと思うんですけども、駅の近くに作るという案の中で出てきたのは、その駅の周辺のにぎわいを取り戻したいっていうお話が中心だったかと思うんです。

ただ施設を作れば周辺のにぎわいが戻るのかと考えますと、それ以前に、私やっぱ駅前の商店街の方たちに、もっといろいろ考えていただきたいなっていう、そちらの方が先じゃないのかなというふうには思います。一つの箱を作ってそこに人がどんどん集まって流れてくるかという、そういうわけじゃないと思うんです。

以前、駅前の空き店舗3ヶ所ほど借りて、コンサートをしたことはあるんですけども、そのときに所有者の方とお話してますと、この店をどうしようか、これからどういうふうに変えていこうかというような雰囲気はあまり感じられませんでした。ただ使えそうなところだけお借りして使ったんですけども、駅周辺のにぎわいっていうのは、まず1番商工会議所とか商店街が中心になって考えていくことの方が重要なんじゃないかなと思いました。

個人的には最初からイベント広場の方がいいよなというふうには思っただけで、最終的に戻ったんですが。ただ施設を作るということが目的ではなくて、その施設を行政の方での一つの部分として、その部分を使って、行政の方でどうしていきたいのか。例えば市に移住してくる人を増やしたいのか、子育て世帯がもっと来てくれるようなまちにしたいのかとか、このまちの魅力をどう作っていくのかということの中での施設のあり方、というものを考えていっていただきたいなというふうには思います。

ですから、審議会委員になったときには、建物よりも、その建物を使ってどういう活動ができていくのか考えてました。石岡市の文化を振興するということもあるでしょうし、子育て世代の人たちなどが石岡市に向いてくれるような魅力を発信できるのか。ずっと審議会では建設までをやってきたんで、個人的には、この審議会は一度終わって、今度次はそれを使ってどういうふうな石岡の魅力づくりをしていくのかっていうことを考えるような、また別な話し合いの場があってもいいのかなと思います。

そうすれば本当に完成した際に、すぐにこれを使って石岡でどういうふうな文化を振興していくのか、魅力あるまちを作っていくのかっていうことに、取り掛かっていけるんじゃないかなというふうにも思います。

■事務局

今D委員からあった、施設づくりのあり方という部分でございますが、大澤会長も常々おっしゃっておりますが、当然、施設を建てるのが最後の目的ではなくて、施設を作ったそのあとに、まちづくりにどうつなげていくのが大事だと。事務局に関しましても、そのように考えておまして、この建物を建てるだけが目的ではなくて、建てた後どう使っていくか、長く使っていく施設になっていくということで大事なものだと考えております。

話が変わってしまうんですが、今基本計画を策定して、今後は基本設計、実施設計ということで設計業務に入っていくわけではございますが、並行してですね、今度は施設の整備計画ではなくて管理運営に関する方針や計画に着手していきます。石岡市の魅力とか、使い方に関してどういったものがあるのか、こういったものを作っていく計画になるわけですが、現時点において方式は決まっておりますが、市民の声を反映させながらこの管理運営に関する計画を作っていくと考えております。

■D委員

先ほど補足のようなものですけども、石岡は歴史のまちって一つのキャッチフレーズを使っているかと思います。今、歴史ボランティアの方に参加して、いろいろ歴史勉強してるところなんですけど、そういったものもアピールできる場所であるとか、あと最近教育関係では幼児教育の大切さってことを考えさせられているところでもありまして、幼児教育をしていく上で、文化的な面ももちろんありますし、あと八郷地区の自然の中で子どもたちが伸び伸びといろんな体験をするといったものも大切です。市のこういった様々な資源というものがあるかと思うんですけども、そういったものを利用して、若い人たちがこの石岡市へ来てくれる、魅力あるものと感じてくれるための施設になって欲しいと思います。

今、2年ほど前からK委員さんにも協力いただいて、子どものためのコンサートっていうものを主催しておりますけども、子どものうちからいろんな文化に触れて、音楽はもちろん様々な文化、自然もそうですけども、そういった魅力のあるものは石岡市にはまだまだたくさんあると思うんです。そういったものを、ネットワークとして繋いでいくような、その中心になるような施設になって欲しいなと思っております。

■大澤会長

E委員さんお願いします。

■E委員

審議をさせていただくなかで、実は私は文化施設自体をまちづくりにどう活かしていくかっていう意識でずっと行ってきました。先ほどG委員さんが言われた、新市民ホールという表現と複合文化施設というのは、どちらでも説明すれば同じことで、二つ名称があるのは非常に困惑しやすいと思います。我々も今聞いたんですが、どちらでも複合の考え方の理由は立つので。

もう1点、議会の話が出たので。議会は場所について様々あって否定したならば、今度イベント広場なら容認される、大丈夫だという担保がちゃんとあるのかっていうのが実は心配で

す。それがなくて、また場所じゃなくて違う理由でダメになったら、結局、審議会自体が真剣に臨むのには非常に不合理な環境になってしまうと。

ですから、特に議会の皆さんがいるという中で、そちらでも本当にその部分は突き詰めて、まちづくりにこの文化施設はどうしても石岡に必要だと。我々は同意するということの担保がなくてはと。このことについて今非常に疑問を感じているところです。

それから、特ににぎわい作りという話が出てるんですが、この文化施設を中心としたにぎわいとなると、やはりトータルコーディネートが必要だと思います。ただこれがいいっていうのではなくて、トータルのにコーディネートする方がいて、総合的に青写真を作らないと、きっと、にぎわいまで考えた場合は難しいなと。

私は委員としては、まちづくりと言うなら、文化施設が単なるイベントではなくて、市民の方々がまちの文化施設ということに誇りを持って運営したり関わったり、活用していくっていうのを目指してるのかなと思って、ずっと話し合ってきたつもりなんです。ですから、多くを求めすぎると実は、どこなのか分からなくなってしまうんですね。総合的な石岡市の計画はもちろんあるし、あって然るべきなんです。我々の委員としての責務の範疇は、やはりお互いに共有していかないと、どうしても思ったようにいかないと思っています。特に住民の方々の利用だったり関わり方っていうのを今後真剣にやらないと、建てた後に非常に不安を感じます。ぜひ、そこを重点的に話し合う機会があったらいいなと。

■事務局

最初にご指摘がありました、複合文化施設と市民ホールと名前が二つあった部分なんです。基本的な考え方としましては、繰り返しになってしまうんですが、旧市民会館に代わる市民ホールを中心とした施設と、これまで皆さんに議論いただいてきた追加の機能を合わせて、新たな施設整備を今後も進めていきたいと考えております。

議会に関する部分はちょっとあれですが、あとはトータルコーディネートと、文化施設を作ることでもまちづくりに活かしていく話は、施設を建てるだけではなくて、石岡の魅力を発信していけるようなものを考えながら、今後進めていきたいと考えております。

■大澤会長

ほかにありますか。

■K委員

今回、ここまで時間かけて駅東で審議してきた中で、駅東に建てることの致命的なデメリットがよく分からないっていうところと、先ほど地盤っていう話がありましたけれど、そこは審議会の中で、問題ないという説明がさんざんされてきたっていうところだったと思います。

駅東に建てるメリットってのは、すごくたくさんあったと思うんですね。その中でイベント広場を選ばれたということなので、今後このホールが建った後で、どのように市内を盛り上げていくかっていうことを考える上でも、イベント広場に建てることの圧倒的なアドバンテージって何かあるのであれば、ぜひ教えていただきたいなと思うんですが、その辺りお考えあればお願いします。

■事務局

まず、イベント広場で建てるメリットというのはやはり、敷地面積が広いというのが1番だと思います。いろいろと、日影規制とか、周りが住宅地なので、高さ制限とかも出てくるとは思うんですが、広く建物を使えるというふうには考えております。

あとはこれもメリットに入ると思うんですが、駐車場が多く取れる。先ほどもありましたように石岡市民の方が使ってもらうのはもちろんですけども、市外の方にも利用してもらうという部分では今の時代ですから車というのがありますので、駐車場が広いというメリットはあると思います。

あとは場所の問題もあると思うんですが、建てた後、どういうふうにご利用していくかっていうのが1番重要だと思いますので、駅からの交通アクセスを良くしたりですとか、あとはソフト面ですとか、そういったものを充実をさせることで、イベント広場に作ってもよかったというふうに言われるようなものにしたいと思っております。

石岡駅東、いしおかイベント広場、どちらも甲乙つけがたいものはあると思いますけども、今回はイベント広場の方という形になったところでございます。

■K委員

駅から25分歩いてくるっていう人はあんまりないと思うんですよね。多分車で来るとしますし、駐車場たくさん取るとなると、たくさん入る規模のイベントをやるってことですよね。それだけの車が出入りするということは、周辺の交通状況ってのは、推して知るべしだと思いますので、支障がないような整備が当然必要になってくるかと思います。その規模のイベントができるだけの周辺も整えていかないといけないと思いますので、その辺も考えつつ、建てた後よかったなと思えるものになればいいなと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■大澤会長

どうでしょうか。ご意見ありますか。

■H委員

私もこの審議会の中で、ずっと石岡駅の方で頭の中でイメージしながら考えてたところがありまして、そういう方も多んじゃないかなと、今でも思っております。それを急にやっぱいいしおかイベント広場の方ってなると、じゃあ、イベント広場に行ったら何がいいのかって頭の中で考えてみたんですが、そこにまだ皆さん至ってないぐらいの時間のなさというか。

今まで駅東で計画してきたものを含めて今後イベント広場に活用させてもらうと言われましても、イベント広場だったら私の考えはちょっと違うんですよっていう人も非常にいると思うんです。その話を吸い上げないまま、執行部の方で、今までの意見をもとに作り上げますと言われましても、それはちょっと違うのかなと思うところもあります。やはり、イベント広場ならこうなんじゃないかなっていう意見をよく聞いてもらって、計画に反映できるようになればなと思います。以上です。そのあたりどうでしょうか。

■事務局

H委員おっしゃる通り、審議会においては、いろいろな議論を重ねてきた中で、最終的に鹿島鉄道跡地に整備ということで最終答申をいただき、ここにいらっしゃる皆様方が、そういったイメージを持って、最後の審議会を終えられたかと思っております。

その後、市長の方からご説明ありましたように、いろいろな事情がありまして、総合的に判断して、建設地についてはいしかイベント広場ということで審議会と異なる方向性を出したところでございますが、確かに時間的にまだ経っておりませんので、すぐ理解をして欲しいという部分についてはなかなか難しい部分あるかと思いますが、私どもとしましては、そこはいろいろご意見をいただきながら、進めさせていただきたいと思っております。回答になっていなくて大変申し訳ないです。

あと、もう一つお伝えさせていただきたいのは、先ほどD委員からもありましたように、施設を整備した後というの、今後はしっかり考えていく。その施設で、どういった魅力的なイベントをやるか、それによって駅東であればついで利用ということで多くの高校生の利用が期待できた部分を、今度はですね、イベント広場ということで、今ご指摘あったように駅から少し離れるというところもありますので、いかに施設の機能を充実させるか、あるいは魅力的なイベントを実施していくか、ソフトの事業の部分というのが大変重要になってくるのかなと思っております。そこは、イベント広場に変えたけども、整備して、いいものができたと市民の皆様には言っていただけるように、今後はですね、ソフトの部分も合わせて考えていきたいと思っております。

■K委員

今おっしゃったように、イベント広場にするならば、ソフトありきなのかなと思うんです。そのソフトがいまいちイメージできてない中でイベント広場となっているわけなので、ここにしっかり人を集めるには、ソフトを考えていかねばと。グルグル回ってますけど、なので、そのあたり何かこうビジョンというかイメージがあるのであれば、ぜひ教えていただきたいなと思います。

■事務局

具体的な部分については、これからということになりますが、例えばですね、今までも議論いただきましたように、新しい施設につきましては、中学生・高校生の部活動の地域展開、そういった活動の場としてもしっかりつなげていきたいと思っております。ですので当然施設の整備としても、中高生の部活動としても使いやすい施設という部分を意識しながらですね、今後具体的に設計等に必要な機能を取り入れていきたいと思っております。またそれに必要なソフトの事業という部分も、しっかり教育委員会と調整をさせていただきながら進めていきたいと思っております。

もう一つ、今回の施設、まずは何より市民にとっての施設ですので、まず市民の方がその文化施設でどういった事業を求めるのか、その部分につきましては、まだ、現時点では明確なものはございませんが、施設整備までにですね、しっかり市民から把握しまして、石岡市民が求める文化芸術の事業がなんなのか、そこはしっかり把握した上で、ソフト事業の組み

立てをしていきたいと思ってます。その部分につきましては、施設開館後も、当然、その都度その都度、市民の意向を確認し、事業の見直しを行いながら、マンネリ化した施設にならず、常に新しい事業というものを実施していくことによって、多くの市民の方、ひいては市外の方の利用につなげていきたいと思ってます。

■ K委員

今のお話で、市民の活動の充実を考えたときにイベント広場の方がアドバンテージがあるという判断だったのかなというふうに、理解しましたので、そういうふうにするように、こちらでもできること考えていければと思います。

■ I 委員

自分も支援者の方に、駅東が反対されて市民ホールちゃんとできるんですかっていうことをよく言われてます。さらに、歴史のまち石岡なので、この複合文化施設の中にも、特に歴史に関係するような、歴史館なんか作った方がいいんじゃないかとか、あと障害者のための会議する場所とかをぜひ作って欲しいってのは、いろいろ言われてます。

それと物価高騰ということで、ホール建てるのに大丈夫ですかっていうこと、なるべく早く作ったほうがいいんじゃないですかっていうことも言われていますので、その辺どうでしょうか。

■ 事務局

繰り返しになってしまうんですが、複合していく機能につきましては、これまで議論いただいたものを基本にですね、今後進めていきたいと考えております。

あと概算事業費に関しましては今公にしているものもございます。当然、今後、物価高騰が考えられますが、この辺は冒頭市長からもありましたように、施設整備の弛まない見直しですね、こういったものも柔軟に対応しながら今後考えていきたいと考えております。

■ N委員

はい、今話を聞いてて、D委員が言ってくれたように、作るのが目的じゃなくてその先も考えていかないといけないよねっていう議論をここでずっとしてたと思うんです。自分の中で、今、モチベーションがすごい下がっちゃっているので、きっとこの審議会の中で良い意見が出るかって言ってもあんまり出ないような気がするんですよ。

ご提案ですけれども、1度この審議会を終わりにして、もう1回新しい組織を作り直して、もっともっと市民を巻き込んだ組織を作り直す、そしてそれを実現に向けていくという方向性や考えはないのかなと今思いました。審議会委員の皆さんも、これあと何回続けて、どこまで提言すればいいのかっていうところがやっぱりあるので。新しい組織で、もし、また市民の人の人の中から手を挙げて欲しいってなったら、私はまた手を上げるつもりではいますよ。いますけれども、もう1回組織作りからやることによって、多くの考え方が入るんじゃないかなというふうに思いました。

■ 事務局

大変貴重なご意見だと思います。

そういったものも今後内部の方で調整をさせていただきながら、検討していきたいと思いますので、前向きに考えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

■F委員

皆さんからご意見出てるのと重なりますけども、前回の審議会のときにも、コストが出てきて、駅東に作った場合に収益性がどれくらい見込めるのかっていう話があったと思うんです。建てた後にずっと赤字経営だと全然意味がないと思うので、その収益を上げて、持続可能にしていくっていうことが、今後ますます市の財政も厳しくなる中ではすごく大事なことでと思っています。

今回、駅東からイベント広場に移ったことで、収益性は下がる方向に働くと思うんですね。先ほどから皆さんもかなりご意見出されてるので、イベント広場に足を運ぶような理由として、まず強いものがないと、なかなか収益性のところも非常に厳しいかなと思っています。作った後のことをやっぱり考えなきゃいけないので。作ることはおそらく今の計画がそのまま進んでできるかもしれないけど、そのあと、本当に持続可能で何十年も地域の複合文化施設として、市民の方々に、また市外の方々に使っていただくものにするためには、今回敷地が変わったことで、ハードルがかなり上がったんじゃないかと思ってますね。

本当に皆さんもおっしゃる通りなんですけど、今回の計画で、敷地が変わったけどそのまま建物の基本計画っていうのが進んでいくんだとすると、ちょっと皆さん納得できないんじゃないかなと思います。審議会自体が解散してもう1回やるにしても、そのまま継続するにしても、今日何もアウトプットとして出てきているものがないので、皆さんも意思を共有するようなものがないのかなと思ってます。

これまでの施設整備の方針は活かしていくというようなお話ありましたが、どういう施設整備の方針で、今回決まったイベント広場に当てはめるとどうなのかっていうのを、今一度市の方でも検討していただきたいんです。どうしても難しいということだったら書面での共有でも構わないと思うんですが、ちょっと今の議論はどうしても机上にないものというか、多分皆さんそう思ってらっしゃると思うので。今年度もう1回そういった会議を開くのもいいと思うんですけども、せめて書面ではまとめていただいて、それをこの審議会にしろ、解散した次の審議会にするにしても、バトンタッチするっていうようなものが今存在してないのことが、皆さんもやもやする部分かなと思いますので。可能な範囲でそこをお願いできれば。

■事務局

先ほどの繰り返しになってしまう部分もございますが、基本的に皆様方で取りまとめいただきました最終答申は非常に重いものとして事務局も受けとめております。

建設に関しましては、様々な状況でいしおかイベント広場に変更となっておりますが、それ以外に関しましては、皆様からの最終答申をベースに今後施設整備を進めていきたい、この部分は変わらないものでございます。

今後、事務局として、進めていく方針ですとか、決定事項や検討事項に関しましては、可能な限り皆様に、何らかの方法で共有したりご連絡できればいいのかなと、現実的には考え

ております。

■M委員

もう皆さんお疲れだと思うので手短に。

本当に、様々な状況でというのはあんまり納得いく理由にはならないので。進め方がおかしいとかではなくて、やっぱりちゃんと理由を明確にして、こういう理由でっていうのを各土地で出した場合のことをちょっとまとめていただきたいなど。

あと予算も最初からあるようでないような、そこの気持ち悪さも何かすごく感じていて、例えば予算が同じなのであれば、サテライトとして、駅前に高校生とか会社員とか移住検討の人とか、身体があまりよくない方とかが、空き時間に学んだり、石岡の文化や地酒を楽しめたり体験できる場所を作ったりとか。予算が一定なのであれば、駅前でしか構えられないサテライト施設を、遺跡を掘る前にコンパクトに作ってとか、そういう同時にサテライトみたいな考え方とかはないのかなっていうのが、ちょっと投じる気持ちです。

サテライトで言うとは私は八郷地区なんですけど、やっぱりここに来るまで車で30分ぐらいかかりますし、テレビで露出増えましたけどほとんど八郷地区の映像が多くて。ただ八郷地区にはこういった施設はないですし、もうちょっと石岡市となったときに、広い視点で石岡市民全員が享受できるようなものを考えていただきたいなと思いました。

あと個人的に、石岡駅前って何もないんだよねって市民の人に言わせる時間を少しでも短くして欲しいな。やっぱり、テレビで歴史のある建物を見て、石岡市にせっかく来ても、その建築物まで行くのにすごく寂しい道を通っていかなきゃいけないってなったときに、テレビで放映される石岡市の素敵さとのすごいギャップを感じてる人が多いんじゃないかなと思うので。駅近でできることと逆にイベント広場でできることを明確に考えていくことも大事なのかなと思いました。

あとお土産を買ってくれる場所が全くなくて、すごくロスしてると前から思っています。駅前にNEW DAYSしかないのも、そこでもっと石岡の文化とか歴史を感じさせるお土産物とかがあれば、来た人はもっと買っていくのになあと普通に思ってます。

■事務局

鹿島鉄道跡地からいしおかイベント広場に変更したところの明確な理由ということですが、先ほど何度かご説明いたしましたが、例えば地盤の部分ですとか、あとは、騒音振動、こちらでも議論いただいた部分もありますが、そういったものがいしおかイベント広場にはないというのが一つあります。あとは、当然敷地全体が大きいので、駐車場を初めとしてですね、大きなスペースを使いながらの運用が見込めるというところがあります。

当然ですね、今後の使い方で石岡市の魅力を十分に発信していけるような施設を目指していきたいと考えております。

あとは八郷との連携ですとか、サテライト機能、こういった部分について、現時点でこのサテライト施設について建てる建てないという話ではなくて、そういったご意見を参考にしながらですね、今後事業を進めていきたいと考えております。

まず市民ホールを最優先で整備を進めるという市の方針のもと進めておりますが、お土産ですとか石岡駅前の活性化も、市全体で見れば当然必要なものと考えておりますので、今後

そういったご意見を参考にしながら、市全体として考えていくべきなのかなと思っております。

■B委員

例えば今、イベント広場の横にある図書館の利用率とか、あと公民館とかの利用率ってほかの市町村に比べてどうなのだろうかと。図書館もかなり老朽化はしていると思うんですが、それが新しくなったときに、果たして人がたくさん来るのかなっていう。そういった、いろんな角度から考えていく必要は、出てくると思うんです。

歴史館についても石岡小学校のところにありますが、あれって市で運営してるんですよね。そうすると、確かに分かりにくいところにはあるかもしれないですが、それが新しくなったときにどれくらい集客が見込めるのか、相当魅力的なものを作らないと人は繋がってこないだろうと思うんですね。なので、複合という部分は本当にすごく慎重に進めた方がいいのかなって。活かされないでしまうともったいないことだと思います。

ひまわりの施設を、私は演奏会で2、3ヶ月に1回は使わせていただいでいて、250人ぐらいのお客さんに来ていただいでます。あそこはどうしていいかっていうと、レストランもあるし、あとお風呂があるので、そこに来た市民の方がその流れで寄ってくれたりするんです。あと、使用する側からするとものすごく安く使えるし、300人ぐらいの座席数なのですごく使いやすいんです。

ただ、ネックはやっぱり自転車で中高生が来るのにはちょっと危ないかなって。ちょっと不便な感じもします。八郷の子どもたちから見ても多分石岡市内から見ても、ちょうど中間で、大人や車があれば行きやすいんですけども、そうしたこともあるので、市内に作る時にどうしたらみんなが使いやすくなるのかなとういうことは本当に細かく考えていかなきゃなと思います。

■事務局

まず冒頭ございました図書館の利用率、この辺りは情報が手元にございませんので、何らかの形で確認検討していきたいと思います。

あと今回、施設に複合する機能としましては、最終答申のご意見をベースに考えていきたいと思っております。図書館ですとか、ふるさと歴史館は直接複合するものではございませんが、そのあたりの連携は十分に考えていきたいと考えております。

あとは、アクセスの面ですね。こちらについても繰り返しになってしまいますが、公共交通との連携ですとか、より利用しやすい方法を今後十分考えていきたいと思っております。

■大澤会長

もう100分ぐらい経ってますね。では、市長、発言をお願いします。

■谷島市長

皆さん本当に様々なご意見いただきまして本当にありがとうございます。

このイベント広場の場所でございますが、実は20年以上前、公共施設の用地としまして市が購入して、そのときに神栄工場跡地の活用シンポジウムというのがありまして、私もその

当時、この土地をどう使うかっていうそのシンポジウムに加わらせていただきました。その時は、人が集い、人を育てるための施設として使いましょうというのがシンポジウムの結論であったかなと思っております。この場所は図書館が隣接しているのと、若い人にとっては駅から歩ける範囲の中心市街地にあるということで、イベント広場の活用がその当時話し合われたということでございます。

今回、私としましては、市が持っている土地の中で、この施設を実現していこうということで、審議会にお諮りさせていただきました。いずれにしても、この施設を作っていく目的は、この石岡市のまちの魅力を向上させる、そして、今までなかなか石岡として様々な文化施設や公共施設が建設できてこなかったということを考えますと、まずはこの新市民ホールを作ることが、この石岡市政を前に進める貴重な一歩になると考えているところでございます。

この皆さんからいただいた意見で、石岡らしい市民ホール、石岡市のまちづくりの起爆剤になるようなものをこれから作っていきたいと思っております。また、市民活動のため、あるいはまちの魅力を向上させるために、この施設をどう使っていくかということを議論する場というものを、市としても、早速、準備して参りたいと思っております。

様々な意見をいただきまして、これらを改めて、この新施設の建設あるいは今後の運営のために使って参りたいと思います。大変貴重なご意見ありがとうございました。

■大澤会長

はい。それでは(2)のその他は何かありますか。よろしいですか。

それでは議事は以上になりますが、最後に私の方から説明させていただければと思っております。

審議会としては先ほど何回も議論にありましたように、建物を作るだけではなく、石岡の活性化に寄与するっていうことを主眼にして、議論してきたわけです。例えばコンパクトシティだとか、まちづくりの持続可能性が必要ですので、若い人をどう絡めるだとか、あるいは維持管理コストだとか、収益性ですね。そういう観点から、石岡駅という判断に至ったと私は理解しております。そういう判断だったんですが、残念ながら場所がイベント広場変わったということです。

今日の議論で、私だけなのかもしれませんが、正直言って分かりづらい説明でした。何でこう変わったのかというところ。分かりづらいっていうのはいろいろ理由もあるんでしょうけど、やっぱり一番厳しいのはマーケットです。マーケットは市の事情は関係ありません。分かりやすいところについていきます。やはりそういうところからの信用を失ってしまうというのは厳しくなりますので、私はぜひですね、分かりやすい説明を求めたいと思ってます。

それでこの資料ですね、これちょっと説明させていただければなと思ってます。これモバイル空間統計という、携帯電話の位置情報からどこに人がいるのかっていうのを示したものです。先ほど来、石岡駅前で計画したものをイベント広場に直で持っていくっていうことの議論も多少あったんですが、私は個人的にも、それはなかなか厳しいということをこのデータから言いたいと思っております。

この1枚目なんですけど、2段になってまして、石岡駅のデータが上、いしおかイベント広場

のデータが下に入ってます。見ていただくと分かるように、平日の滞在人口を見ますと、まず総数で言うと、2倍、3倍ですね、石岡駅の方が多いということです。ですので先ほどからあったついで利用という、圧倒的に石岡駅の方が多いということです。

かつ大事なことは、市外からの人口あるいは若者人口ですが、これも掲載していますが、これももう多分4倍ぐらい駅の方が多い。市外からの人口に至っては、イベント広場は少ない。ほぼゼロに近いということです。

ですので、先ほどいろんな皆さんから議論があったように、もしイベント広場でいくのであれば、極めてハードルが高いです。どういう人を招くとか。ついで利用は期待できませんから。先ほどB委員からもありましたけど、お風呂に入りに来た人がついでにっていうことは期待できない、もう新規に呼び込むしかないということです。これは右側の休日でも同じような人口になってるってことを説明したいです。

2ページ目ですが、これはどこに人がいるのかっていうのを示したものです。青点が左と真ん中にありますが、左がイベント広場、真ん中が駅です。これも圧倒的に駅に近い方に人がいるということです。休日も同様です。

こういう観点から言いますとやっぱりアクセスのコストがかかる。先ほど駐車場という問題がありましたけど、今は地球環境を考える時代です。やっぱり公共交通に転換させなくちゃいけない。多分石岡市の交通計画でもそういう議論をしてるはずですよ。そういう観点からも、石岡駅の計画をそのままイベント広場に持っていくというのは、なかなか難しいかなと思ってます。

3枚目4枚目ですが、総人口ではなく、3枚目の方は市外から来る人はどこにいるのか、4枚目は若い人がどこにいるのかというグループになっています。これも圧倒的にも違うというのは読み取れますので、こういうエビデンスから見て、やはり場所を変えるっていうのであれば、それなりの理由が必要だというのは、私も強く思います。

あと繰り返しになりますが、リスクのところは確かに読めません。何が起きるか。ただそこを大きく考えると、何もできなくなってしまう。石岡の大事なところやっぱり地域の活性化、人口減対策だと私は思ってます。ですので、もしイベント広場にシフトするのであれば、やはりそれなりの設計変更が必要と思ってますし、戦略ですよ、そこをきっちり考えていく必要があるということだけは、最後にですね、強調したい。

なかなか仕切ってる人間なので、自分の意見は主張しにくいんですが、このデータで、私の意見は述べさせていただきました。

以上をもちまして今日の審議会を終了します。今後どうするかはまた事務局とも相談しながら、進めさせていただければと思ってます。進行を事務局に戻します。

■事務局

はい。ありがとうございました。

長時間にわたりまして様々なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。

それでは以上をもちまして、石岡市複合文化施設整備審議会を終了いたします。

本日は本当にありがとうございました。